

<p>第 5-7 回 (2021.5.18, 2021.5.25, 2021.6.1)</p>	<p align="center">『情報の分類と検索：理論と実際』</p> <p align="center">黒橋禎夫教授(情報学研究科)</p>
<p>【第 5 回 講義】 2021/5/18(火) 4 限</p>	
場所	Zoom 配信 (補助者は附属図書館講習会室から発信)
出席者	16 名
目的	情報の分類と組織化について、概要を理解する。本学蔵書検索システム
達成目標	(KULINE)を用いて、分類を活用した図書の検索方法を習得する。
PandA 掲載資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の分類と組織化について概要を理解する。 ・ KULINE の分類検索機能を使うことができる。 ・ 日本十進分類法 (NDC) の分類体系を理解する。ある分野について、NDC に基づいて分類できる。また、分類を推測して資料を探することができる。
課題提出方法	PandA のテスト・クイズツールを使用
<p><講義+演習></p>	
時間配分：	15:00-15:45 講義 (黒橋先生)
15:45-16:00	課題説明 (演習補助者)
16:00-16:20	課題 A (個人ワーク)
16:20-16:30	次回予告
<p><予習ビデオ></p>	
内容：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の分類と組織化 ・ 分類の演習：授業までに各自で 14 個の単語を分類してみる ・ 動植物の分類 ・ 図書の分類 ・ 情報検索(文書検索)
<p>*授業の前週(第 4 回授業)に、予習ビデオを見て授業内容を予習してくるよう案内した。</p>	
<p><講義> (黒橋先生)</p>	
導 入：	自然言語処理(言葉とコンピュータ)、End-to-End Learning/System
情報の分類と組織化：	「分類は知のはじまり」物事を体系化することで全体を把握
LATCH(5 つの整理棚：	Location, Alphabet, Time, Category, Hierarchy)
分類の演習：	予習ビデオで示した 14 個の単語の分類 →(解答)階層構造を持つ
「分類は、視点・観点によって異なる」	
分類の諸問題：	ウィトゲンシュタインの家族的類似性
言葉、文化との関係、オーバーラッピング	
動植物の分類：	アリストテレス/人為分類, リンネ/階層的カテゴリ, アダンソン/類型分類,
ラマルク/系統分類	
数量分類学：	特徴ベクトル(属性の束)で個体を表現→類似度をもとにクラスター分析
図書の分類：	図書館の歴史の変遷とともに体系的な分類が行われるようになった。
書架分類・書誌分類。	
十進分類法(デューイ、国際、日本)、	コロソ分類法(主題+ファセット)
ことばの分類：	シソーラス(語の上位下位、同義関係などを体系的に整理。分野の学問体系を明らかにする)
情報検索：	テキストの特徴ベクトル表現→類似度計算により文書検索
検索エンジン/クローラーが収集した文書を全文検索。	

精度向上のため PageRank やアンカーテキストを利用。

情報推薦：特徴ベクトル・行列→ユーザ間の類似度計算

<演習> (演習補助者)

■課題 A

下記 3 つのテーマから 1 つを選択し、以下の課題に答えてください。

○テーマ 1. 京都の祭りと文化 2. AI と未来社会 3. 感染症と政治経済

A-1. 選択したテーマに関連するキーワードを 2 つ挙げてください。キーワードのどちらか、または両方を使って KULINE の詳細検索画面から検索し、それらをタイトルに含む図書を 1 冊選び、書名と NDC(日本十進分類法)の分類番号を答えてください。

A-2. KULINE の NDC 分類表をもとに、選択したテーマについて資料探索する際に有効と思われる NDC 分類番号 3 桁を考えられる限り複数挙げてください。

A-3. A-2. で挙げた NDC 分類番号 3 桁を用いて KULINE で分類検索を行い、書名に A-1. で挙げたキーワードを含まないが、各テーマについて調べるのに役立つと思う図書を 1 冊選んでください。

※必要に応じて、絞り込み検索を用いて件名などで目当ての図書を絞り込んでください。

A-4. 分類検索によって資料を探すことの利点を述べてください。

A-5. 分類検索によって資料を探すことの欠点を述べてください。

【第 6 回 演習 1】 2021/5/25 (火) 4 限

場所	Zoom 配信 (補助者は附属図書館講習会室から発信)
出席者	15 名
目的	分類を活用した資料探索について学ぶ。 テーマが各分類体系(NDC, NDLC)でどのように位置づけられているか、実習を通して比較し、資料探索における分類の活用方法を習得する。
達成目標	・国立国会図書館 (NDLC) の分類体系を理解する。日本十進分類法 (NDC) と比較し、それぞれの分類体系の違いについて説明できる。
PandA 掲載資料	・課題 B 説明スライド ・国立国会図書館分類表リンク ・テーマ別 NDLC 分類表 ・ファクトチェック検証課題一覧 (次回予告時に使用)
課題提出方法	PandA のテスト・クイズツールを使用

<講義+演習> (演習補助者)

時間配分： 15:00-15:10 NDLC について・課題説明
15:10-15:25 課題 B-2 NDLC 分類検索 (個人ワーク)
15:25-15:50 課題 B-3,4 比較・検討まとめ (グループワーク)
15:50-16:10 発表 (グループごとに)
16:10-16:15 講評(コメント 黒橋先生より)
16:15-16:30 次回予告

■課題 B

<事前課題>

B-1. 選択したテーマについて調べるのに有効と思われる NDLC(国立国会図書館分類表)の分類番号を考えられる限り挙げてください。

<個人ワーク>

B-2. B-1 で挙げた NDLC 分類番号の中で特に有効と思われるものをいくつか選び、KULINE で分類検索を行い、役立ちそうな図書を 3 冊選んでください。

<グループワーク> ※グループで意見交換後、個人で解答

B-3,4. NDLCとNDC(日本十進分類法)を見比べて、選択したテーマにおけるそれぞれの分類体系の特徴等を比較してまとめてください。

- (ポイント)・テーマの分類番号の前後やその周辺にはどのようなものが分類されているか
・分類全体を見て、選択したテーマ(分野)はどの位置づけられているか
・テーマ(分野)の探しやすさ

※Zoomのブレイクアウトルームを使い、選択したテーマごとに2~4人のグループに分けてグループワークを行った。補助者・TAも各ルームに振り分けてグループワークの様子を見守った。受講生はグループごとに画面共有機能を使うなどして意見交換と発表準備を行った。グループワーク後に発表の時間を設け、1グループ3分程度で、B-3,4についてまとめた意見を発表した。ワードやパワーポイントで発表資料を作成し、画面共有して発表を行ったグループもあった。

<個人ワーク>

B-5. グループワーク時の意見や他グループの発表を参考にして、資料探索における図書分類法の活用の意義について、自身の意見を簡潔にまとめてください。

B-6. 同様に、資料探索における図書分類法の活用の留意点について、自身の意見を簡潔にまとめてください。

【第7回 演習2】 2021/6/1(火)

場所	Zoom 配信 (補助者は学術情報メディアセンター南館 303 から発信)
出席者	16名
目的	インターネット上の情報の特性やフェイクニュースについて理解し、演習を通じて批判的思考に基づいた情報判断を学ぶ。
達成目標	・批判的思考やインターネットの特性について学ぶ ・ファクトチェックに関する演習を通して、ある情報が信頼できるかを批判的に判断できる
PandA 掲載資料	・講義スライド ・課題C説明スライド ・「ファクトチェックとは」ファクトチェック・イニシアティブのウェブサイトより ・次回予告スライド
課題提出方法	PandA のテスト・クイズツールを使用

<講義+演習>

時間配分 :	15:00-15:03	授業スケジュール説明
	15:03-15:30	講義 (黒橋先生)
	15:30-15:35	課題C 説明
	15:35-15:55	課題C-2,3 比較・検討まとめ (グループワーク)
	15:55-16:20	発表 (グループごとに)
	16:20-16:30	講評(コメント 黒橋先生より)

<講義> (黒橋先生)

人の認知のバイアス：信念バイアス, 確証バイアス, 流暢性・美的ユーザビリティ効果・光背効果

批判的思考：自分の推論過程を意識的に吟味する。推論の土台(情報・手法)の検証

情報リテラシー：情報の信頼性を判断する。

インターネットの特性の理解・情報を批判的に読む

フェイクニュースは新しい現象ではない

テクノロジーとフェイクニュース

情報信頼性：批判的思考を持つ

情報分析システム WISDOM、ファクトチェック・イニシアティブ

■課題 C

<事前課題>

C-1. 以下の検証課題から、気になるものをグループで一つ選び、その検証に役立ちそうな情報を調べてきてください（たとえば、図書・論文・人物・統計・法律・記事……など）。

1. 『医療従事者用のワクチンを高齢者に当てるように』と国が都道府県に内々に指示
2. 片山さつき氏ら自民2議員 宣言下の東京から浜松まつりに参加
3. 菅首相「従軍慰安婦」の教科書記述認めない考え 朝日新聞は報じず
4. 5月11日だけで55人が亡くなった（大阪のCOVID 19に関連した言説）
5. 米国発日本行き飛行機 半数位が米兵で、彼らは検査をせずに入国できる
6. コロナワクチン接種センター 日本旅行、人材派遣 会社に自衛隊が丸投げ

※検証課題は、ファクトチェック・イニシアティブから直近の話題を提供いただき、その中から補助者と黒橋先生で演習に適した6つを選定した。なお、受講生には、利用を本講義内に限定するよう、注意を促した。

<グループワーク> ※グループで意見交換後、個人で解答

C-2. 事前課題C-1の情報源をグループ内で共有してください。そのうち、ファクトチェックに有用だったものを2点選び、どの点が有用であったかを述べてください。

C-3. 選んだ検証課題について、FIJのファクトチェックのレーティング基準（真実性・正確性を評価・判定する基準）のどれに当てはまるかを考えてください。また、どのような点からそのレーティング基準を選んだのかという理由も述べてください。

※Zoomのブレイクアウトルームを使い、選択したテーマごとに2~4人のグループに分けてグループワークを行った。メンバーは、原則第6回時と同じ割り振りとした。補助者・TAも各グループに振り分けてグループワークの様子を見守った。受講生はグループごとに画面共有機能を使うなどして意見交換と発表準備を行った。

グループワーク後に発表の時間を設け、1グループ3分程度で、C-2,3についてまとめた意見を発表した。ワードやパワーポイントで発表資料を作成し、画面共有して発表を行ったグループもあった。

発表と講評後、選択されなかった選択肢のファクトチェックについて補助者から解説した。

<個人ワーク>

C-4. 第7回の講義と演習を踏まえて、批判的思考のために必要だと考えたことを2点挙げてください。

■まとめ・反省点

- ・全3回ともオンライン授業としてZoomで講義・演習を行った。演習ではオンラインでグループワークを行った。内容は主に意見交換とし、グループとして成果物の作成・提出は行わず、意見交換をもとに個人で意見をまとめて解答する形とした。
- ・演習内容は昨年度から変更し、フォークソノミーの演習を取りやめ、ファクトチェックの演習を導入した。選択肢を6題用意しグループごとに任意に選択させたところ、選択されたのは2題のみに偏ってしまった。来年度以降は、こちらで出題時に各グループに割り振るなどの方策を検討したい。
- ・グループワークでは受講生同士で画面共有などを使って話し合いを進めていた。グループによっては、当初話し合いがあまり進まないグループも見られたものの、昨年度よりグループワークの時間を多くとったためか、時間が足りないという声は減った。最後には意見をまとめて全グループが発表を行った。アンケートでは、他の班の意見が聞けて参考になった、視野が広がった等の感想があった。
- ・今年度初めて実施したファクトチェックの演習については、「信頼性の高い情報源を参照する習慣をつけたい」「SNSなどを見る際は注意していきたい」など、実生活を意識した感想も寄せられた。

・授業受講にあたり、発声できる環境で参加するよう連絡していたが、環境を用意できない学生もあった。そのため、第8回の会場をメディアセンターに変更し、受講生が発声できる環境を用意した。

(文責：小野)